

最高額のユーロ紙幣の発行を停止。

～街なかで使われる高額紙幣は信用できない!その理由とは?!～

あまり日本国内では報道されていないが、ユーロ紙幣から500ユーロ札が無くなってしまいうさだ。欧州中央銀行は2018年末までに500ユーロ札の発行と印刷を停止する方針を発表した。資金洗浄などの犯罪行為を助長しかねないというのが理由らしい。ユーロ紙幣の種類は5ユーロから500ユーロまでであるが、私がかつてフランスに滞在していた時も200ユーロ札(約2.2万円)や500ユーロ札(約5.6万円)を普段目にするにはなかった。むしろ高額紙幣を持っていたことで非常に厄介な思いをした経験がある。

フランスはパリでタクシーに乗った時のことだ。夜遅くに空港に着いた私は旅の疲れもあり、タクシーを使って市内のホテルまで向かうことにした。無事ホテルに到着し、さあ降りようと運賃の精算で運転手に紙幣を渡したところ、なぜか困惑している様子。何事かと尋ねてみると、どうやら200ユーロ札を出したことに問題があるらし

い。普段200ユーロ札以上の高額紙幣が使われることはめったに無く、いざ使おうと思っても偽札の可能性を疑われて精算を拒否されることもあるので、出来れば受け取りたくないとのこと。他に小額紙幣は持っていないかと聞かれ、さてこちら弱ってしまった。普段は20ユーロ札など細かい紙幣で持っているのに、運悪く200ユーロ札一枚しか持ち合わせていない。しかも新札である。運転手に事情を説明して何とか精算して欲しいと言うが拒否され、ファストフード店なら両替してくれるかもしれないとのことで行ってみると既に閉店。お金はあるのに精算できないという妙な事態に巻き込まれ、運転手と押し問答すること30分以上。最後はホテルにも事の経緯を説明し、嫌々ながら両替してもらって無事精算することができた。しかしホテルにまで両替を渋られるとは驚いたが。現金決済主義の日本と違い、カードや小切手などの非現金決済が主流のフランス。紙幣を

巡って社会や文化の違いが感じられた貴重な経験があった。

日本ファイナンス有限会社
下関店 店長
松原 剛

AFP(日本FP協会認定)
TEL083-234-3544

<http://nihon-finance.com>

借金で苦しむ人への的確なアドバイスで定評がある、消費者金融のプロフェッショナル。弁護士の人脈、債務カウンセリング、真摯に相談に乗る姿勢が認められ、感謝の声が多数寄せられている。ラジオなどのメディア出演を通して、借財に対する正しい認識を広めている。

